



暑中お見舞い 申し上げます

半夏生の涼やかさが、一時暑さを忘れさせてくれます。半夏生は、半化粧とも記され日本語の美しさと、季節感を感じます。今年の夏は、「過去経験したことがない暑さ」との予報を聞いた途端、先行き不安になりましたがそこは人間の知恵で暑さ対策を講じ乗り切りたいものです。

はぐるま

さわりじちょうさんへ
長いあいだ、はぐるまの登山合宿に
いっしょに行ってくれたり、マラソン大会のしんぱんちょうをやってくれたり、おはなししてくれたりして、どうもありがとうございました。これからも、きがねなくあそびにきてください。いつでも、みんなまっています。
はぐるま仲間自治会一同
※理事長は退任されましたが、理事とし関わりをもっていただいています。



6月28日仲間自治会「評価式」が行われました。その際仲間から創立以来、長年ご尽力を頂き、先日、退任されました澤理事長にお礼の言葉が読み上げられました。(残念ながら当日は欠席でした)



まいにちの作業所のかつどうやホームのせいがかつが、げんきにたのめるように、がんばろうー！
そつと じゅうじゅん
登山合宿じゅうじゅんー！

紅谷新理事長には、「これからよろしく」と、仲間と同じ帽子を進呈しました。仲間曰く、「この帽子があれば、登山に一緒に行けるね！」
昨年は感染症の流行で登山が中止になり、悔しい思いが仲間にありましたので、今年度の目標は

紅谷理事長 帽子をかぶる！！

No.93
2016年7月7日
社会福祉法人
はぐるまの会
広報委員会
川崎市多摩区
菅馬場 1-18-17
TEL 044-946-1308



石丸峠より富士を望み、
大菩薩峠頂上へ



昨年中止になった計画をそのまま実行します。

中止になったとき仲間の言葉が、「**ぐやぐや**」だったのが印象に残ります。

暑い暑い中での練習、積み重ねた仲間会議、準備万端の装備、そのすべてが、「**中止!!**」の一声でなくなっちゃったという感じだったようです。

もちろん中止の決定は仲間自治会、登山実行委員会にも回り、感染症が止まらないこと、重症の状態の仲間がいることの実態は理解できましたから、納得の上のことでした。

しかし心中は穏やかでなく、その思いが今年の意気込みにつながっている事を感じます。

中止という決断は、私たち職員にとっても、30年という長い伝統ある登山活動で初めてのことでした。そのことで再認識したことは、たくさんの方たちの支えがあつての活動だということ。特に寸前でキャンセルをした、山小屋「福ちゃん荘」スタッフの方たちへ与えた影響は大きなものだったでしょう。何しろ障害を持った仲間たち50人とはぐるまのスタッフ30人、総勢80人の受け入れをすることの覚悟は並大抵のことではなつたはずで。

寝具やスリッパに至るまで人数分の用意をしていたのだと聞いています。キャンセルのお詫びに行った時、「来年は必ずいらつしやい」と言っていたこと、今年こそよろしくと先日伺ったとき、「山荘を整備して待っている」と言つて頂いたことに感謝し、今年の登山の成功を誓います。

高齢期を迎えた仲間たちの登山への意気込みを、10代の仲間たちに見せられるよう、若い仲間は力いっぱい発揮できるように、職員一同準備をしていきます。

「近所さんだより」

前号でマラソン大会の出会い、「20数年前から、多摩川を走る仲間を見守っていただいている方」を紹介しましたが、この度、こんな問い合わせがありました。

だいぶ前になりますが、私（石井清三さん）がはぐるまのだよりで紹介された時の記事を頂けませんか。



早速調べたところNO51・2010年の記事にありました。

中野島交差点で朝、子供たちや仲間たちの安全見守りをしていた、当時78歳の（現在84歳）石井さん。

記事抜粋「仲間とも親しくなり、家内もO美さんとはお友達のようにです。何人かと挨拶を交わし雨の日も風の日も一生懸命に通勤する姿に、家族ともども励まされます」

はぐるま共同作業所から数分のお宅なので、だよりをお持ちして、お話を伺いました「〇〇さんは最近見ないけど元気かしら？よくお話をしてくれましたよ」

私たちも知らない20数年も前のお話しなど聞かせていただきました。

今も尚仲間たちに心を寄せていただいていることを知り感謝です。

NO51のだよりを、大事に取ってありましたが、切り抜きだったので、全部が記念として欲しいのだということでした。

ご夫婦そろってお元気でしたので、これからも仲間たちを見守っていただきますよう、よろしくお願いいたします。

高木

新連載スタート

2025年問題と新オレンジプラン ①

日本社会の少子高齢化が一般的な話題、問題として取り上げられるようになり、だいぶ経つように思います。

個人的な話で恐縮ですが、第二次ベビーブームの最終便にあたる1974年に私は生まれ、母は第一次ベビーブームの団塊世代にあたります。この団塊世代が60歳、65歳となる年代をさして、2007年問題、2015年問題と大きく世間を賑わしていました。

団塊世代が労働から退く、年金を受給する、そのような事態を迎える度にその労働力・消費力等が日本社会に大きな影響を及ぼしていたのだなと感じられます。

後に「福祉元年」と呼ばれる1973年の直後に、第一次オイルショックを経験した日本社会は高度経済成長から安定成長へと変貌していきました。その影響は、終身雇用を

保障された男性が稼ぎ主となり、女性が家庭で子育て・介護（ケア）を担うという家族形態を前提としていた社会福祉システムにも及んでいきます。核家族化が進み、女性の社会進出が進むことで、それまでの私的な助け合いによって成り立ってきた在宅介護の限界も表面化しました。そして、高齢者介護の「社会化」を基本理念の一つとして掲げ、

1997年に介護保険法が制定、2000年4月1日より施行されることとなります。

介護保険法は5年を目途に改正が行われてきました。2005年の改正にあたっては地域包括支援センターの創設が大きな目玉として取り上げられました。要介護状態へ至る前の予防事業に力を入れると共に、地域支援事業を市町村が実施することとなったのです。こうして、日本の福祉の流れに「地域」という言葉、概念が表舞台に現れます。

2011年の改正においては、高齢者が地域で自立した生活を営むことができるようにするために、医療、介護、予防、住まい、生活支援サービスを提供する「地域包括ケアシステム」の実現を図ることとなりました。

また、認知症対策の推進として市民後見人の育成及び活用、市町村の実状に合わせた認知症支援策を盛り込むこととなります。

（次回へつづく）

新井

「森のマルシェ」が始まりました！

この4月より、生田緑地運営共同事業体さんと協働で、毎月第4日曜日の10時～15時に生田緑地東口ビジターセンター前（日本民家園入口付近）にて、「森のマルシェ」を開催しています。

マルシェでは、はぐるま工房（農園産）の野菜とハーブをはじめとして、日頃から協力をいただいている生田緑地近隣の農家さんの季節の地場野菜を多数取り揃えておりますので、ぜひ一度ご来場ください！

福田



ご寄付をありがとうございます！

赤い羽根共同募金会

はぐるま共働学習ホーム

念願の収納家具一式を購入しました！



長い歴史のあるはぐるま共働学習ホームなのですが、今回の引越先で、初めて職員部屋が確保できました。それに伴って過去30年間の資料が保管できる書庫、利用者の預り物の整理棚や事務机が完備できました。鍵付きの書庫は個人情報を取納するのに大変重宝しています。ありがとうございました。

あおぼホーム

最新式の洗濯機が活躍中です！



新しい洗濯機は今まで以上の容量を早い時間で洗濯することができます。

これまでは洗濯が間に合わず、翌日まで洗濯物がたまってしまいう事もりましたが、新しい洗濯機のおかげで、今まで以上に素早く、きれいに仕上がるようになりました。梅雨がはじまり、洗濯物が乾きにくくなる時期にこのような生活必需品を新調できたこと、嬉しく思っています。ありがとうございました。

さくらホーム



今回、赤い羽根募金でさくらホームのフロアリング改修工事をして頂き、本当にありがとうございました。衛生的なピカピカのフロアリングにご本人はもとより職員ともども喜んでおります。

コーヒー&ハーフトイでリフレッシュを！

読売ランド前駅商店街の近くにあるはぐるま第2共同作業所では、花ハウスでの喫茶店運営を続けてきたノウハウを生かし、自慢のトランサイドコーヒーとはぐるま工房産のハーフトイの提供を開始する事となりました！

8月より、ベンチ等を配置して小さなカフェの運営を開始する予定です。お近くにお越しの際には、是非お立ち寄りください。



地域住民の小さな憩いの場となることを目標に頑張りますので、応援をよろしくお願いいたします！